

## 家族経営の変貌と経営展開

### 第1報 家族経営と小農の概念整理

中原秀人 (福岡県農業総合試験場)

Hidetō NAKAHARA : The Change and Development of Family Farm.

#### 1. A General Idea of Family Farm and Small Farmer

##### 1. はじめに

戦後行われた農地改革によって、小作地の大多数は解放され、自作農が大量に輩出した。この時点で自作による家族経営が農業生産を担う層として確立された。その後、高度経済成長を経て低成長へ移行した今日でも、農業の具体的な生産単位が家族経営であることに変わりはない。しかし、この間家族経営に関しては関連用語を生みながら種々論じられてきた。一つは資本家的経営への過渡の形態として小農解体論と並行して論じられたものであり、もう一つはその強靱性を再評価するものである。

本報では、家族経営の概念を明らかにすることを目的とし、その方法としてまず家族経営の関連用語の整理を行い、次に小農と家族経営の関係を明らかにする。そして最後に企業の経営と対比しながら家族経営の今後の展望を考察する。

##### 2. 家族経営の用語整理

家族と農業経営の2つの言葉が結合した家族経営という用語は、家族を単位として農業経営が行われていることを意味する。

家族経営の要件としては、従来①家族労働力、②生産手段の自己所有、③家計と経営の未分離であった。近年では上記の他に、経営主の経営管理能力がその要件として重要視されるようになった。

しかし、以上のように規定しても家族経営は非常に範囲の広いものを含むことになる。つまり自給性格の強い経営から企業の経営に近いものまでを含んでいる。そこでこれらを区分するため、家族経営は種々の用語を生みだしてきた。

関連用語を3つの基準によって区分すると、次のように整理される。

1) 家族制度による区分 ①家族制経営、②家族協業経営、③本来的家族経営

2) 収益水準による区分 ①家族労作経営、②資本型家族経営、③企業の家族経営 (資本家的経営)

3) 経済的性格による区分 ①自給経済的家族経営、②付随的家族経営、③商品生産的家族経営 (さらに資本装備の進行状況によって労働型と資本型の家族経営に区分される)

次に、上記の区分に従って現状を整理すると、1)は家族協業経営、2)は家族労作経営と資本型家族経営に大多数が含まれ、どの段階にあるかは固定資本装備の進行状況から部門別に異なっている。3)は付随的家族経営が第2種兼業に該当し、その他は商品生産的家族経営である。

##### 3. 小農と家族経営

家族経営が農地改革を出発点として論ぜられ、家族を中心とした生産体制を表す用語であるのに対し、小農はロッセル、エレボウによって規模を表す用語として使われた。その後、グビッドの小農優越論から発展してチャーヤノフにより、量的基準ではなく本質 (経済原理) が異なる経済主体として規定されてきた。我が国でも、横井時敬によって、資本主義的な営利経営に対して小農は非営利経営でありその本質が異なるものとされてきた。

つまり、小農は単に規模によって区分されるのではなく、規模と経営原理と生産体制を含んだ概念で、中でも資本主義的な営利原則とは異なった非営利の原則を持つものであることに最大の特徴がある。具体的には、小規模で家族労働力を中心とし、経営の目的を農業所得の極大化におき、もって家族の維持拡充を図るものである。

このように家族経営と小農はその概念が異なっているにもかかわらず、混同される場合がある。それは、家族経営が労作的段階では、家族労作経営はそのまま小農であり、同じ経営を示すことになるからである。そして家族労作経営をもって家族経営とすると、家族経営がそのまま小農を意味する用語として流用していた経過がある。

##### 4. 家族経営と企業の経営

小農と企業の経営は相対立する概念だが、企業の経営を利潤を目的とする経営として理解するならば、家族経営とは対立するものではない。しかし、企業の経営を雇用を前提として理解するならば、両者は対立する。

企業の経営を会社組織による経営として捉えると、1980年の県内の会社組織による農業事業体は80存在する。その内73は畜産部門が占めている。中でも養鶏64、養豚5と施設利用型畜産において会社組織の参入が進んでいる。つまり、労働の季節性が弱く、土地から離れた資本集約度の高い部門で企業化が進んでいる。

逆に、労働の季節性が強く、土地集積が規模拡大の基本的要件である米・麦、野菜、果樹部門では企業の参入はみられない。NIRA報告の企業の経営否定の見解が該当する部門である。

以上から、家族経営の枠内で展開するには土地と結び付いた部門でなくてはならない。土地から離れた経営では、企業化の可能性が強いものの、その部門においては、資金力が経営要素として重要になる。つまり、資本が支配する段階である。